西東京市市民協働推進センター

平成29年度第11回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成30年3月20日(火)午後7時00分～9時00分
■開催場所：イングビル3階第1、2会議室
■出席委員：池田委員、伊藤委員、海老澤委員、古林委員、紺野委員、櫻井委員、佐藤(文)委員、鈴木委員、田中委員＜以上9名、五十音順＞
■事務局　：内田センター長、鈴木副センター長、小平福祉活動推進課長、妻屋福祉活動推進課長補佐兼係長、山田主任

1.報　告　事　項

1.業務報告について

事務局より、1月期の主催事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談の状況について説明があった。

2. 3月以降の事業について

事務局より、2月以降の実施事業について説明があった。

委員長：NPOフェスティバルへの参加により、交流会に参加した方はいるのか。

事務局：地域活動・スタート説明会の参加者のうち、地域活動・スタート交流会への申込は3名あったが、当日参加者は1名であった。タウン誌や市報を見ての初参加者が5名あった。

3. 来年度の運営委員会委員について

事務局より、平成30年度西東京市市民協働推進センター運営委員会委員について説明があった。

4. 来年度の事業計画及び予算について

事務局より、平成30年度西東京市市民協働推進センター事業計画及び平成30年度西東京市市民協働推進センター活動計画について説明があった。

委員長：サロンスペース利用の目標値は他市の同じようなスペースと比べてどうか。

事務局：設備の広さや環境によって違うが少ないのではないか。近隣の武蔵野市や府中市と比べれば桁が違う。

委員長：平均では年何人くらい利用するのか。

事務局：2000人位だ。

委　員：重点事業が5月からスタートするが、企画は進んでいるのか。

事務局：地域活動紹介ゆめサロンは企画中である。協働のまちづくりワークショップの時期は決定しているが、中身はこれから詰めていく。円卓会議はテーマ決定などの議論が必要である。6月に運営委員会へ付議を予定しているが、開催の予定がずれることも考えられる。

委　員：円卓会議は毎回議論になるが、今何が課題なのかを丁寧に確認する必要があるのではないか。課題について共有されていないと軸がぶれる可能性がある。円卓会議は何年やっているか。

事務局：6年だ。

委　員：まだ、企画が決まっていないのであれば、今までの事を一度振り返っておく必要もあるのではないか。スタートで何を目指したのかを新運営委員にもお知らせしてはどうか。

事務局：過去の振り返りを調整していく。

委　員：社会福祉法人の法改正が一昨年行われ、社会福祉法人は地域に貢献することとされている。分科会等を作り、地域貢献活動を進めている。更に、主たる事業だけをするのではなく、若手が集まり議論等をして広がりをみせており、来年フードドライブの実践を考えている。同一性の団体が集まると動きは早い。いずれ、地域の営利法人と連携を組む流れになると思う。お互いが発信することにより、問題をさらに掘り進んでいけるのではないかと期待している。いろいろなところで、いろいろな活動が行われていることを、お互いに紹介し合うことは必要ではないか。

事務局：社会福祉法人の連絡会では市内で活動している社会福祉法人と連携をとり、具体的に動き始めている。今後の展開を考えて、市民活動団体とも連携していく事が必要ではないかと声が上がっている。ゆめこらぼやボランティア市民活動センターのネットワークを意識しながら事業が展開できればと思う。

委　員：お互いを知り合うことで交流ができれば取り組みの発展も考えられる。

事務局：東久留米の自治会では、買い物難民問題などに取り組んでおり、NPO法人にできることがあれば考えていくことはできる。

委　員：つながりを拡げてみると違う視点も出てくると思う。2年ないし3年と時間はかかると思うが面白みがでてくるのではないか。

委　員：消費者団体も毎月会合をするなど交流は出来ているが、弱体化しており維持するのが困難になってきている。多摩では子ども食堂で交流会が進んでおり意見の交換かをおこなっている。これからは自分達だけでやっていくのではなく、西東京市の中ではゆめこらぼがまとめてつないでいくことも考えられるのではないか。

事務局：子ども食堂を作る前に公民館で講座を行ったとき協力をし、一緒にやって来た経緯はある。現在は情報でのフォローをしている。相手からこうして欲しいなどの要望は今のところない。

委　員：そこにゆめこらぼがもう少し関わりを持ってもよいのではないかと思った。頑張りすぎると新しい人が入れないので、バランスが取れると良い。

委　員：放課後カフェでは来年度の計画として市内の連絡会を作る予定である。テーマ型は勢いがあるところはうまくいく。ゆめこらぼとして関わるのであれば冊子の分野ごとで呼びかけをし、情報交換の場を作ることは可能ではないか。

委　員：放課後カフェの情報は市民にとって「見える化」は考えられるのか。

委　員：事業を知ってもらうことと、目標としては市内9中学校中6中学校が実施されているので、未実施の中学校には実際の運営を見学してもらうなど、目的をはっきりさせていれば人は集まると思う。ぼんやりしたカテゴリーでは集まらないと思うので、カテゴリー別で集まる日を作ることも考えられる。集まれば何か生まれる可能性はある。

委員長：放課後カフェは今勢いがありネットワーク化が進んでいると思うが、子供食堂は横のつながりはあるのか。

事務局：子ども食堂の横のつながりは29年度から子育て支援課が情報交換の場を年に2回ほど設けている。

委　員：行政がかかわると子育て支援課しか範疇がなく、縦型で「見える化」ができない。個別の団体は知っているが、活動している内容がもう少し地域の枠組みの中でも見えるようになればと思う。市民団体の活動はやっていることをもっと知ってもらえないと勿体ない。中間支援は、活動団体の自主性を尊重しながらできることを探すという、立場的に難しい役割だと感じる。具体的な意見は出ないが、ゆめこらぼとして何ができるかを検討し新たな方法論を見つけることも必要ではないか。

委　員：それぞれの団体がそれぞれのミッションや想いがあり動いている中で、調整をとるのは難しいと思うが、活動の重複や漏れがある等、各々で動いていると発生してくる問題がある。連絡会を設けることは大切である。お互いが知り合うことで新しい活動の道筋が見えてくれば、市民活動団体には大きいことだと考えられる。縦割りにするよりは情報交換の中で次の地域課題にどう取り組んでいくか考えていくことができるのではないか。

委　員：連絡会は作れば場がうまくいくという一方で、そこまでするメリットはあるのかとも思う。気軽に集まれるのであればよいが、連絡会の作り方も工夫が必要だ。よりスムーズに活動に役立てられる情報交換ができればよい。

副委員長：自分達が一生懸命やっている活動の情報が本当に必要としている人に届かない。情報は意外なところから伝わったりするので、連絡会だけではなく、事業の大小を超えた話し合いができる場や情報のつながりを作ることはゆめこらぼにできることではないか。今まで声をかけてこなかった方へも連絡会を通して行うこともできるのではないか。

委　員：市民団体の方々は登録システムがありゆめこらぼに繋がっているが、企業にはないので、連絡を取り合う場があればイベントに参加する機会も出てくると思う。

委　員：毎月のサロンは登録団体向けに案内をしているのか。

事務局：地域活動をしたいという市民が対象だ。

委　員：「団体のみ参加」など条件をつけて雑談の場を作ることも考えられる。

委員長：そこに企業が参加することも考えられる。

2. 審　議　事　項

1. 前回の会議録について

委員長:会議録は意見がないようなので確定稿とする。

2. 来年度の事業計画及び予算について

事務局より、平成30年度事業計画における（仮称）自主企画委員会（案）について説明があった。

委員長：今回フィックスさせたいと考える。

委　員：やりたいことがあって委員が集まるのではなく、委員が集まってからやることを決めるのか。

事務局：どちらにするか決めていない、この場で決めていただきたい。
事務局：方向性を反映したガイドラインを決めたい。初めての試みなので試行錯誤して次年度で変更してもいいのではないか。
委　員：団体に呼びかけして意志ある人を集めるということか。
事務局：そうだ。
委　員：目的を明確にしてからメンバーを集めた方がいい。
事務局：そのように考える。
委　員：様々な人が集まってからやることを決めるのは大変だ。
委員長：前出の委員が集まってからやることを決めるパターンだ。
委　員：やりたいことを持っている人がいてそれに対して委員が集まり実現に向かうのがいい。募集の仕方が難しい。
事務局：そもそも登録団体がメリットを感じることが必要。団体のニーズに合わせたテーマを設定することが、基本と考える。テーマを決めて募集をかければ従来通りになってしまう。委員を募集する前に団体のニーズを聴取し、テーマを選定する必要がある。
委　員：であれば、ニーズを聴取するための雑談が必要となる。
事務局：そうだ。
委　員：依頼設定を出して、自主企画として一緒にやりませんかという流れがスムーズではないか。
委員長：従来、講座の設定はゆめこらぼがニーズを把握しながら決めてきと思うが、自主企画との差、テーマを選定するまでのプロセスの差は何か。言語化したい。
委　員：言葉で表現するのは難しい。ならば、前出の雑談の中からと言う事も考えられる。
委　員：雑談の中からいくつかチームが出来る可能性もある。また、チームができる事が講座開催より大きな成果と捉えることもできる。初年度は一回だとしても次年度に繋げられればいいのでは。ロングスパンになるがチャレンジする意味はある。
委　員：設置目的について質問したい。市民活動の活性化と協働の推進を目的としている。講座セミナーは団体の活性化を目的にと記載されている。講座セミナーは市民活動の活性化として捉えられ、協働の推進ということでは、講座セミナーに捉われない事業が発想できる。講座をやって団体の為にはなるが、そこから協働の推進に広がっていく時、計画書の 4 番と繋がらないのではないか。
事務局：初年度は事業計画としては、やり易いところからやればいい。設置の目的についてはもう少し長いスパンを持ってみればセミナーを通して活性化しつつ協働の推進に結び付いていく。長期、短期の目的が載っていると理解してもらいたい。
委　員：そうなると 30 年度の事業計画はおのずと範囲が絞られる。絞られた範囲で委員を募集することになる。期間についてはどうか。
事務局：基本的には 1 年だ。
委　員：同時に複数の委員会が存在することはあるのか。
事務局：あると考えられる。
委　員：講座セミナーの開催は年 3 回となっている。同じメンバーで 3 回やるのは大変だ。複数の委員会だと理解した。
事務局：3 回のセミナー全部を自主企画委員会がやるというわけではない。従来通りゆめこらぼで企画するものもあっていい

委　員：委員会に出てきたメンバーが進めればいい。メンバーに呼び掛ける文面が重要だ。
委員長：前出の雑談の場について、開催する裁量があるのか。
事務局：予算はないが開催できる。
委員長：委員にやりたいことがあって、集客に対しサポートがあれば面白いものになる。
委　員：魅力があれば申し込みがあるのではないか。
委　員：ゼロから作る楽しみも斬新だ。自由度も大事。サポートがあるというのも重要だ。
委　員：ネーミングも大事。
委員長：ガイドラインを定め、スタートするのか。素案は作るのか。
事務局：素案は事務局が作る。
委員長：お願いする。

協　議　事　項

1. 今年度の事業報告及び予算について

事務局より平成 30 年度西東京市市民協働推進センター事業報告（案）について説明があった。

委員長：不明点はあるか。
本年度の一番の成果は何か。
事務局：天候の特殊事情を除けば、開催したイベントは定員を満たす参加者が集まった。全体として色々なイベントについて定着化がされている。
委　員：ホームページのアクセス数は 2.5 倍というのは目を見張るものがある。注目度があがっているということだ。見える化は大切。情報の更新が大切になってくる。
事務局：そうだ。
委　員：成果については、目標と結果について語られるべきだ。課題は次年度の目標を達成する方策について記載されるべき。次年度の総括に役立つ。
事務局：4 月の報告事項とする。

4. そ　の　他

1. 次回運営委員会日程について

日時：4 月 17 日（火）19 時～21 時
会場：イングビル 3 階　第 3, 4 会議室